



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2017年01月 第120号



皆様 寒中お見舞い申し上げます。本年もよろしくお願ひいたします。

昨年は、南米初のオリンピック・パラリンピックがリオデジャネイロ開催され、多くのアスリートたちが活躍する明るい話題がありました。しかし一方では、熊本地震や東北・北海道での台風や長雨などにより、多くの方が被災され、農作物、家畜、農畜産業関連施設にも多大な被害が発生しました。被害に遭われた皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

そして2017年が皆様にとって良い年になりますようお祈りいたします。

本号はこれまでのメルマガを担当されていたIと、10月に入社しましたIとのI&Iによる共同制作となるものです。今後ともよろしくご支援を頂けましたら幸いです。

写真は六歌仙と名づけられたハルサザンカです。上野の某デパートにある園芸店で名前の優雅さにつられて、数年前に小苗を衝動買いしたものです。ようやくと30cmほどに育ち、花も20輪ばかりつけるようになりました。六歌仙は平安時代に編纂された古今和歌集の序文に記載された僧正遍昭や在原業平などの六人の代表的歌人を指しています。土浦市の旧新治村小町の里山には「花の色は 移りにけりないたづらに 我身世にふる なかめせしまに」と詠んだ、六歌仙の唯一の女性である小野小町が、晩年を過ごしたとされる小町の館なる記念館があります。今となっては、この地と小野小町との関わり合いは、悠久の流れの中にゆだねることと致しましょう。

サザンカ群の見本園としては、東京農工大学府中キャンパスが有名で、約300品種が保存展示されています。六歌仙の開花期は12月から2月で、皇居の平川門を入った所に古木があるそうです。冷たい空気が張りつめた早朝、凜とした風情を漂わせて咲くのをみると、冬の寒さに負けずに、春の到来を待ちわびる気持ちが一層強く感じます。ハルサザンカ群はサザンカの突然変異や藪ツバキとの交雑種ですが、自然界では交雑がめったに起こるものではなくて、サザンカとの分岐は400年前にさかのぼるとされています。現在、ハルサザンカ群としては、約50品種ほどがあるそうです。ツバキ属の基本染色体数X=15



を単位として、ハルサザンカでは様々な倍数体が生じています。とくに通常はほとんど結実しない3倍体からの実生には、3倍体から10倍体までの幅広い変異があります。動物の世界では想像を絶する染色体数のバリエーションが普通に存在し、品種として永らえています。このような生命維持のしたたかさに敬服するばかりです。と同時に、家畜の世界においても、この多様性こそが地域の特性に根ざした土・草・牛を永続的に育むうえで大事なことなのではないかと思うことは、飛躍のしすぎでありましょうか。

さて、ニッサンメールマガジン第120号をお届けします。

平成28年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」のうち 「経営体強化プロジェクト」及び「人工知能未来農業創造プロジェクト」の 公募の開始

平成28年度補正予算「革新的技術開発・緊急展開事業」のうち「経営体強化プロジェクト」及び「人工知能未来農業創造プロジェクト」について、事業実施主体（公募主体）である、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター(生研支援センター)において、公募が開始されました。詳細は下記をご覧ください。

http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/161122_21.html

畜産研究部門主催シンポジウム 「転換期における畜産技術開発研究と今後の展開」

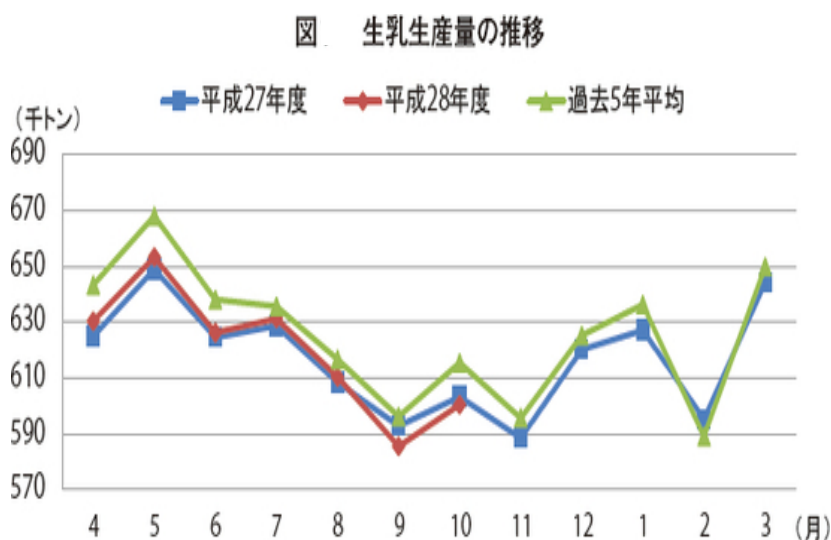
標記のシンポジウムが12月8日(木)につくば市で開催されました。その趣旨は以下のとおりです。

わが国の体系的な畜産技術開発研究が畜産試験場において大正5年に開始されてから100年が経過しました。この間、幾度かの国立研究機関体制の変革を受け、昭和25年に農業技術研究所に統合、昭和36年に畜産試験場として独立、平成13年の独立行政法人化に伴い草地試験場と統合した畜産草地研究所となり、本年4月より農研機構畜産研究部門として改組されました。その間、わが国の畜産業の発展を支えるべく種々の技術開発を行ってきました。

現在、世界経済のグローバル化の波の中でわが国の畜産業のあり方は大きなターニングポイントを迎えるに至っています。この状況の中で、畜産技術研究のより一層の重点化と効率化に資するべく、これまでの研究展開を総括し、今後の研究発展方向を議論しました。

平成28年10月の生乳生産量

平成28年10月の生乳生産量は、60万456トン（前年同月比0.5%減）と2カ月連続で前年同月を下回りました(図)。内訳を見ると、北海道は31万9396トン（同0.3%減）、都府県は28万1060トン（同0.7%減）と、ともに減少しています。減産傾向が続く都府県の中で、最も生産割合が高い関東は、5月以降は減少傾向でしたが、10月は増加に転じ前年同月比0.9%増となりました。（農林水産省「牛乳乳製品統計」）。しかし生乳生産のパターンには大きな変化がありません



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

印刷用の PDF ファイル

本メールマガジンでは印刷用のPDFファイルを添付してあります。PDFファイルをご利用いただくためには、Adobe Readerが必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メールリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしく申し上げます。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。